

コルリで見られた落葉除去行動

青山 茂（ひとはく地域研究員）

はじめに

ツグミ科鳥類のシロハラやクロツグミ、トラツグミ等は、全長 22～30cm で、一般に大型ツグミと呼ばれる。これらの大型ツグミは地上を跳ね歩いて移動しつつ立ち止まり、嘴で落ち葉をめくったり、落ち葉や土を跳ね飛ばしたりして昆虫やミミズを採食することが知られている。コルリは全長約 14cm で、スズメ目ヒタキ科に属する。本種はかつてツグミ科に分類されていた。小型ツグミとされていた本種が大型ツグミと同様に地上で「落葉除去行動」を行うのかどうか、さらに他の小型野鳥ではどうなのかについても調べた。

調査場所と方法

コルリについての調査は、2023 年 9 月に六甲山系に所在する神戸市立森林植物園で行った。調査方法は、本種が地上で採食様子をデジタルカメラ（キャノン、PowerShot SX70 HS）で動画撮影し、再生して見直した。他の小型鳥類の行動についても、適宜、落ち葉の堆積した地上で採食中の行動を動画撮影して調べた。

結果と考察

コルリ幼鳥雄の地上での行動を 7 日、合計 44 分、動画撮影し、再生して調べたところ、落葉除去行動が 14 回確認された。この行動が珍しいのかどうかを評価するため、本種と同等の体サイズの野鳥の



図. コルリの一連の落葉除去行動. A: 頭を左下に下げる（くちばしは正面の枝で隠れる）, B: 頭を横に振り上げ、落ち葉をはね飛ばす, 矢印: はね飛ばされる落ち葉, 2 本で 1 枚の落ち葉を示す.

採食行動を同様に動画撮影して調べたところ、少なくともイワヒバリ科のカヤクグリ（全長 14cm）、アトリ科のアトリ（全長 16cm）、ホオジロ科のホオジロ（全長 16.5cm）、カシラダカ（全長 15cm）、アオジ（全長 16cm）、クロジ（全長 17cm）、ソウシチョウ科のソウシチョウ（全長 14～15cm）でも落葉除去行動が見られた。このことから、小型野鳥が地上で採食する場合に落葉除去行動を示すのはごく一般的なことであると言えそうである。今後、より小さなミソサザイ（全長 10.5cm）やヤブサメ（全長 10.5cm）でも落葉除去行動が見られるのか調べたい。

参考文献 本研究内容の一部は以下で報告済みである

青山 茂（2025）地面に落ちたタカノツメの実を採食したコルリ．人と自然 Humans and Nature 35: 29-33